

表 - 2 追加した内部メトリクス

No	内部メトリクス	特性	副特性	直接制御 可能: , 不可能:	定義	目的	備考
1	障害検出	信頼性	成熟性	x	$X=A/B$ A=レビューで検出された障害数 B=レビューで検出されると見積もった障害数 (過去の履歴や参照モデルを使用)	レビューで検出された障害数をカウントし、そのフェーズで検出されると見積もった障害数と比較する	
2	障害除去	信頼性	成熟性	x	1) $X=A$ A=設計またはコーディングで除去された障害数 2) $Y=A/B$ A=設計またはコーディングで除去された障害数 B=レビューで検出された障害数	設計またはコーディング期間に除去された障害数をカウントし、設計またはコーディング期間のレビューで検出された障害数と比較する	
3	テスト適切性	信頼性	成熟性		$X=A/B$ A=テスト計画で設計され、レビューで確認された、テストケース数 B=要求されたテストケース数	計画されたテストケース数をカウントし、十分なテスト網羅を得るために要求されたテストケース数と比較する	
4	機能仕様安定性	機能性	合目的性	x (顧客の要求として変更が出てくる可能性)	$X=1-A/B$ A=開発ライフサイクルフェーズの期間で変更された機能数 B=要求仕様に記述された機能数	開発ライフサイクルフェーズの期間で変更された(追加、修正、もしくは、削除された)機能数をカウントし、要求仕様に記述された機能数と比較する	
5	変更影響	保守性	安定性	x	$X=1-A/B$ A=修正後の悪影響の検出数 B=行われた修正数	修正後の悪影響の検出数をカウントし、実施された修正数と比較する	
No	純粋内部メトリクス			直接制御 可能: , 不可能:	定義	目的	備考
6	トレーサビリティ 追跡性				$X=A/B$ A=レビューで確認された追跡可能な項目数 B=チェックされた項目数	要求から実装にマッピングする機能の中で、文書と設計構造の有効性、および、ソフトウェア製品のコードを計測	
7	サイクロマチック数				$e-n+2p$ e:辺の数 n:頂点の数 p:接続するコンポーネント数	ソフトウェア設計とコーディング構造の複雑さのレベルを計測	
8	モジュール度				1) $X1=A1/B1$ A1=機能がお互いに結びつくモジュールの数 B1=モジュール数 2) $X2=A2/B2$ A2=データ構造がお互いに結びつくモジュールの数 B2=モジュール数	プログラム機能/データ、実行の順序、及び、制御フローの階層における機能ナレッジベースの更新と生成の容易さを計測	